

今年度の事中評価は下表のとおり182事業(主194事業中)について評価が行われ、125事業が「計画通り進める」、56事業が「改善検討」、1事業が「抜本的見直し」と判定されました。

政策評価委員会による外部評価では4事業が選定され、このうち2事業が「計画通り進める」、2事業が「改善を検討」と判定されました。

今年度の評価結果

続く二次内部評価では、副町長が一次内部評価と外部評価の結果を踏まえ、次年度の予算編成と合わせて事業担当課へのヒアリングを行い、評価判定を決定します。

最終内部評価では、町長が二次内部評価の結果を踏まえ、次年度の予算編成と合わせて事業担当課へのヒアリングを行い、最終的な評価判定をします。

担当課、副町長、町長の3段階にわたる「内部評価」と町民目線による「外部評価」により、事業を適切に評価し、より効果的な事業の実施に向けた改善に取り組んでいます。



政策評価の結果(平成30年度)

評価判定項目	一次評価	外部評価	二次評価	最終評価	割合(対前年比)
計画通り進める	142事業	2事業	125事業	125事業	68.68%(↓3.45%)
改善検討	(事業内容)	15事業	23事業	24事業	30.77%(↑2.9%)
	(事業費)	2事業	1事業	0事業	
	(その他)	22事業	32事業	32事業	
抜本的見直し	1事業	0事業	1事業	1事業	0.55%(↑0.55%)
合計	182事業	4事業	182事業	182事業	

まちの事業をしっかりとチェック！



政策評価

【問い合わせ】 町経営企画課地域政策グループ ☎ 73-7502

町では、総合計画の施策目標に基づき実施する計画事業の進捗状況や現状の課題、成果などを評価・検証し、次年度への改善につなげる政策評価を平成20年度から実施しています。

このほど、平成30年度の政策評価(事中評価)結果がまとまりましたので、実施概要と合わせてお知らせします。



PDCA サイクル



Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価)、Action(改善)の視点を事業の循環過程とし、成果を重視し継続的な改善を推進するマネジメント手法。

評価の仕組みと流れ

政策評価は、町長、副町長、事業担当課による自己評価を行う「内部評価」と、町民目線の客観的な評価と提言を行う「外部評価」により進められます。

年に2回実施し、まず、年度の半期を終えた9月までの事業実施状況に対する評価を「事中評価」として、10月から翌年2月にかけて次年度の予算編成と合わせて行います。「事中評価」の結果は、当年度の成果達成に向けた改善策への反映、さらに次年度へ向けた見直しと予算に反映されます。次に、3月には、当年度通期の事業実績

を踏まえて「事後評価」を行い、次年度の成果達成に向けた改善策に反映されます。

これは、継続的に事業を改善し、PDCAサイクル(下図参照)による実効性のある事業を展開していくために欠かせない仕組みです。

政策評価の対象は、平成27年度からスタートした、まちの最上位計画「第6次総合計画」に位置付けられている事業です。

流れとしては、はじめに一次内部評価として、事業担当課が事業ごとに設定した活動指標および成果指標の実績を把握します。次に、前年度の評価で出た改善内容や現状の課題を検証し、今後の実施方針を提示したうえで、評価判定を決定します。

並行して進められる外部評価では、公募町民などで構成される政策評価委員会が特に関心の高い事業を評価事業として選定。現地視察や学習会を行い、評価対象事業への理解を深めます。その後、事業担当課へのヒアリングを経て、一次内部評価の結果も踏まえながら町民目線で評価を実施。評価判定と改善策の提案などを報告書にまとめ二次内部評価前に町長へ提言します。

外部評価

町民目線でよりよい事業を
政策評価委員会が報告書を提出



◆政策評価委員(任期2年)

◆委員長

金崎 行男

◆副委員長

鈴木 克典

◆委員

大沼 英明

門崎 晴美

菊地 愛実

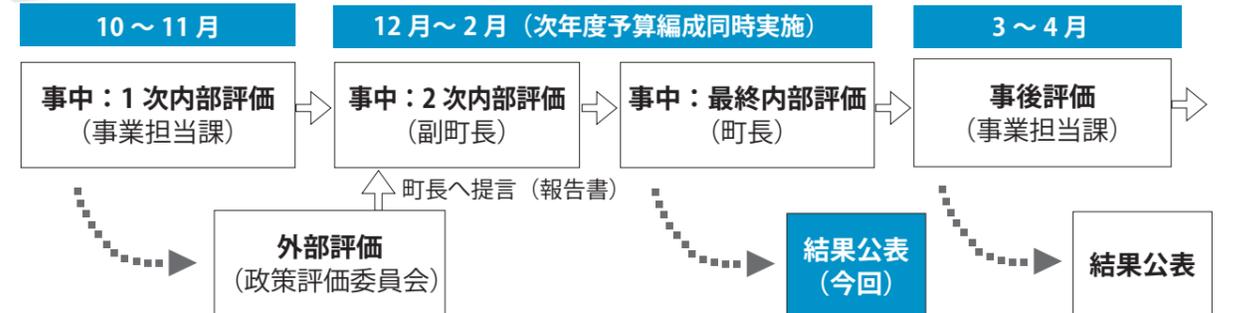
政策評価委員会は、「ごみ分別の正しい知識の普及啓発と協力体制づくり」「災害時の情報伝達手段の充実」「御大師山周辺(栗山公園等)の散策路・施設等の計画的な改修・整備」「御大師山周辺ガイドブックの作成および散策路・周辺施設の利活用の促進」に関する4事業について報告書をまとめ、昨年12月25日、町に提出しました。

委員会は8月から7回にわたり開催。現地視察を含む事前学習会とヒアリングを行い、有識者委員である北星学園大学の鈴木克典教授の助言を受けながら、事業内容の把握に精力的に取り組ましました。

金崎委員長は「評価事業は、町民の身近な問題に関する取り組みであり、また関心の高いものでした。そのため、町民目線で活発な議論を交わし、評価を行うことができました。これからのまちづくりの一助となれば幸いです」と述べ、報告書を受け取った佐々木町長は感謝の意を伝えました。



政策評価の流れ



募 集

まちづくり審議会・委員会

町では、町民参加の機会を広げるため、各種審議会・委員会などの公募を進めています。

- 共通事項**
- 申込期限** 3月25日(月) 必着
 - 応募要件** ・町内に在住、在勤または在学されている満18歳以上の方
※3機関以上の町の審議会・委員会などの委員の方は応募できません。
 - 応募方法** ・専用の申込書に必要事項を記入し、下記申込先まで提出
※申込書は下記申込先でお渡しするほか、町ホームページからもダウンロードできます。
※申込書の提出は、郵送、FAX、Eメールのいずれかで構いません。
 - 決定方法** 申込書による書類選考および面談 ※申込書は返却しません。

▶ 第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定委員会委員

高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、また、介護保険事業が円滑に行われるように、事業の計画を策定します。

- 公募人数** 3人 (総委員数15人以内)
- 応募要件** 高齢者福祉・地域福祉・介護サービスに関心のある方
- 任期** 第1回の委員会議の日から平成33年3月31日まで(2年間)
- 会議など** 平日の夜間(60分程度)年3回予定。会議1回出席につき3,000円の謝礼
- 申込先・問い合わせ** 町福祉課高齢者・介護グループ ☎73-7507

▶ 栗山町地域密着型サービス運営委員会委員

地域密着型サービスの適正な運営とサービスの質の確保などについて協議します。

- 公募人数** 2人 (総委員数10人以内)
- 応募要件** 高齢者福祉・地域密着型サービスに関心のある方
- 任期** 4月1日から平成33年3月31日まで(2年間)
- 会議など** 平日の夜間(60分程度)年3回予定。会議出席につき3,000円の謝礼
- 申込先・問い合わせ** 町福祉課高齢者・介護グループ ☎73-7507

▶ 栗山町生活支援体制整備事業協議体委員

多様な日常生活上の支援体制の充実・強化、高齢者の社会参加の推進などについて協議します。

- 公募人数** 3人 (総委員数15人以内)
- 応募要件** 高齢者福祉・地域福祉に関心のある方
- 任期** 4月1日から平成33年3月31日まで(2年間)
- 会議など** 平日の夜間(60分程度)年2回予定。会議1回出席につき3,000円の謝礼
- 申込先・問い合わせ** 町福祉課高齢者・介護グループ ☎73-7507

▶ 栗山町地域包括支援センター運営協議会委員

地域包括支援センター各業務の評価、地域包括支援センターの適切・公正かつ中立な運営の確保などについて協議します。

- 公募人数** 2人 (総委員数10人以内)
- 応募要件** 高齢者福祉・地域福祉に関心のある方
- 任期** 4月1日から平成33年3月31日まで(2年間)
- 会議など** 平日の夜間(90分程度)年2回予定。会議1回出席につき4,000円の謝礼
- 申込先・問い合わせ** 町福祉課高齢者・介護グループ ☎73-2255

平成31年 町内会長・自治会長 ~1年間よろしくお願ひします~

松風第1	大沼	英明	明光	南	河村	茂	鳩	山	堀	田	幸	蔵
松風第2	青木	明光	淳	山の手	福永	力	雨	煙	別	岡	定	夫
寺町	高倉	信司	淳	桜丘	角田	伸慶	緑	学	田	井	内	弘
松風本町	工藤	信司	淳	松	八木橋	義則	北	学	山	安	達	康
松風第5	村上	勝彦	淳	中	鳥山	幸雄	桜	山	白	西	川	幸
松風第6	井上	善晴	淳	朝日	椋澤	忠彦	杵	白	台	清	水	秀
松風第7	古俣	茂	淳	朝日4丁目	古瀬	一芳	旭	台	清	水	秀	幸
松風第8	河合	政明	淳	栗山農事	赤穂	範士郎	共	和	西	山	健	治
松風第9	渡辺	光章	淳	中里団地	秦	則行	三	日	月	中	島	武
2区	小澤	茂晴	淳	睦	関	吉一郎	阿	野	呂	井	澤	達
3区共親会	今井	敏明	淳	新里	初山	清仁	大	井	分	田	村	賢
4区共和会	置田	武司	淳	ときわ	佐藤	正彦	南	学	田	水	木	稔
5区	檜崎	忠彦	淳	湯地中央	永池	英彦	御	園	鶴	川	豪	紀
6区	前田	勝治	淳	ふじ団地	本間	正道	南	角	田	大	坪	竜
7区	小野	政則	淳	みなみ中里	鈴木	武澄	円	山	鈴	木	正	志
8区親交会	坂口	昇一	淳	青葉	新井	義澄	東	山	川	瀬	昭	典
9区	岡本	大作	淳	道栄	笹森	孝雄	滝	下	川	浦	孝	治
10区	岩佐	和義	淳	富士	水上	信市	角田町内会連合会	市	川	耕	一	男
12区	岡本	財一	淳	中里	吉田	義弘	継立町内連合会	飯	尾	憲	真	性
北区	北間	則之	淳	湯地	清水	哲雄	日出連合町内会	草	間	真	性	(敬称略)
西区	塩原	秀夫	淳	森	橋本	慶子						

くりやまサポーターのまち楽しみまくり その5

今月号で早くも最終回を迎える「栗山の魅力を探る」まち巡り。今回はスポーツ好きののっちとヤマナカが、角田神社を訪れました。栗山開拓の礎となった角田地域。この地で受け継がれてきた文化と伝統。そして今、後継者問題が大きく立ちあがる…地域の人の声を前にサポーターたちは？

今回は栗山のルーツ角田村を知るため、角田神社に行ってきました！



1891年に建立された栗山町最古の由来を持つ角田神社。社殿に保存されている獅子頭には、入植者の筆頭となる泉麟太郎氏のほか26名の寄付者の名前が記されています。この獅子頭は明治41年～大正4年に購入、使用されていたとされ、これが角田の無形文化財、角田獅子舞の始まりだと言われます。

長年、獅子舞の保存を行ってきた角田獅子舞保存会の永田英隆さんと古田敏幸さん。



数年前から、体力的に納得のできる踊りができなくなってきました。見に来てくれた人にも中途半端なものを見せられません。

苦渋の決断を下した保存会の人たち…

誇りを持った獅子舞保存会の人たち。歴史ある伝統文化がこれからも引き継がれてほしい。

1953年からは角田神社の祭事に毎年奉納され、地域に欠かせない恒例行事となってきました。永田さんたち保存会は、地域の子どもたちへ長年演舞技術を伝えるなど、獅子舞の伝統文化を守ってきました。しかし、獅子舞のなかでも特にハードと言われる角田獅子舞。演者の高齢化と後継者不足により、元旦の獅子頭奉納が難しくなっていました。そして2018年元旦をもって奉納はやむなく休止することになったのです。

若者が4人集まれば、すぐにでも再開できるみたい！

角田神社の歴史、伝統文化を残していく事の難しさが伝わってきます。私も人に伝える事が出来る様に、栗山についてもっと詳しくなりたいです。

くりやまサポーターの ヤマナカ いのっち



がレポートします！ ※当日はヤマナカが仕事のため欠席となりました。

※全5回「くりやまサポーターまち楽しみまくり」にお付き合いいただき、ありがとうございました。また、ご協力いただいた地域の皆さま、貴重なお話をありがとうございました！

※2月号その4の内容の一部誤りがありましたので訂正します。①誤：泉麟太郎の甥→正：泉麟太郎の一族 ②誤：角田領主→正：角田藩士